

第1回 「言葉は魔術」

富士市議会議員小沢映子さんから

「発信力を磨いて福祉を変える・医療を変える」一まさに、市議会議員になってから10年間の私のテーマそのものです。

それは私のこれまでの経験が大きく関係しています。

私は小学校の教員をしていましたが、第1子出産の時にまさしくお話の通り。必要のない陣痛促進剤の事故で、娘は重度の脳性まひになってしまいました。その後は多くの苦しみの中、親の会を作り、社会福祉法人を設立して、重症児者の生活介護施設を作り、市会議員として10年活動してきました。

自分の子どもに教えられたことを、社会に発信していきたい、伝えたい、変えたい、そんな思いでこれまでできました。しかし、議会は旧態然とした男性優位の集団で、市長・副市長をはじめ、部長も全員男性です。手ごたえよりも限界を感じるが多かったように思います。

それでも、毎回の一般質問や委員会、その他の場面で提言し続けてきました。

和田教授の心臓移植のころは子どもだったのですが、心臓を取り換えるという印象的な出来事がテレビで連日報道されるのを興味を持って聞いていました。子宮頸がんワクチンについては、何も知らなければ娘に受けさせていたと思います。

テレビメディアは、視聴率を取れるとわかると商業化して情報を作るようになってしまいました。メディアリテラシー教育のなされていない日本では、無責任にあふれてくる情報を鵜呑みにしてしまっています。

政治でも政策でも大変な混乱のもとになっていると思います。

最近では高額所得のお笑い芸人の母親の受給に関して生活保護バッシングの嵐が巻き起こりました。私の周りでも大きな誤解が生じています。

親子は別であること、むしろ日本では漏給が問題であるなど、生活保護はメディアの間違った報道だと伝えるのに苦心しています。

ゆきさんは、日本の医療界で、「縛ること」を「抑制」と表現してきたことによる過ちなどいくつかの言葉の例を朝日新聞時代から指摘しておられました。全く無頓着でいた私は言葉の持つ魔術性に初めて気づきました。

私たち重症心身障害児を持つ親が作った施設がドキュメンタリー映画となり全国で上映中です。反響の大きさに驚いています。私たちの伝えたい思いを、映像が何にもまして深く観て下さった方々の心に刻んでくれていることに感謝するとともに、映像の力の大きさにも今更ながら驚いています。

ゆき注：小沢映子さんのサイトは <http://www4.tokai.or.jp/ozawa/>

<http://blog.goo.ne.jp/fuji-eiko-1958/c/c2e05d489089f8b2a6801a04d22da1ae>